

「国籍が天にある幸せ」

ピリピ人への手紙 3 : 7 - 2 1

October.22.2023

## ピリピへの手紙 3 : 7 - 2 1 (パワポ)

### Preface

私の尊敬するある牧師先生が、ご奉仕のためにオーストラリアのシドニーに行きますと、いつも出迎えて下さる気の置けない一人の長老の方がいらっしゃいました。

長老のお年は 80 歳でした。

お仕事も引退され、都会から離れた田舎町に居を構え、悠々自適に暮らしていました。

この長老が、牧師先生がオーストラリアに行かれた時、こんなことをお話しされたそうです。

「ここ最近毎日、夕方の 5 時には夕食を食べ、8 時には眠りに就きます。

そして朝早く起きて、毎朝ゴルフをします。

日中は読書をしたり、自然の中を散策したりしていますので、80 歳になっても体が全く疲れません。」

すると、牧師先生がこう答えました。

「長老、私は長老よりも大分年は若いですが、長老のような生活が出来たら、私も全く疲れれることはないと思います。

ですが長老、このような生活を毎日送っていて、長老は、長老の人生にどんな意味を見出すことが出来るのでしょうか？」

これからもこのように生きて行き、息が途絶えるその最後の時、後悔の念が湧いて来ないのでしょうか？」

日が経ち、牧師先生もお仕事を終えシドニーを発つその朝、長老が空港にまで見送りに来られました。

そして、こんなことを仰ったそうです。

「先生、人生の終盤に入った私に、また新たに、私の人生を考え整理するヒントを下さり、ありがとうございます。」

### Part One

いつからそうなのかよく分かりませんが、ここ最近新聞の広告欄を見ますと、沢山の健康本、どうすれば体の健康を保つことが出来るのかということについて書いてある本の宣伝が、沢山目に付きます。

特に目に留まるのは、その本が出るまで全く無名だったお年を召した方の健康本が、ベストセラーになっているという広告です。

韓国での話なのですが、ある有名な英語講師だった方が、ある日から突然体の健康を保つことに目覚め、健康を人々に宣べ伝える健康伝道者となりました。

それまでは英語講師をしていましたので、大学受験をする子供たちのための英語の本を執筆していましたが、ある時を境に、出版する本は全て健康に関する本となりました。

内容が良かったのか、毎週新聞の一面全体を使って取り上げられる程に、その方の書く健康に関するコラムが注目を浴びるようになりました。

で、その健康を保つ基本的な方法は、先程の長老と同じ方法です。

毎日夕方5時には夕食を済ませ、8時には寝ること。

すると、食べた物すべてが消化されて、臓器を綺麗に保つことが出来ると。

また、朝早く起きて、定期的に適度な運動をすること。

「そうすれば、皆、健康長寿になれます」ということでした。

「健康のために、この肉体を健康に保つために、人生をオールインしなさい」ということですね。

でも、こんな生活をするためには、仕事をしている方たちのほとんどが辞表を出さなければならなくなってしまうかもしれません。

「いつかは朽ち果てていくこの肉の塊を出来るだけ長く良い状態に保つことこそ価値があり、そのことのために、すべてを投資しなさい」というように聞こえますが、このことについて考えていますと、こんな聖書の言葉が頭の中に思い浮かんできました。

**テモテへの手紙第一4：8－9（パワポ）**

**箴言3：6－8（パワポ）**

結局、この元英語講師の健康伝道者の方は、「この健康法を用いて、ギネスの世界の長寿記録を更新してみせる」と日頃から口にしておりましたが、1999年86歳の時、交通事故で亡くなってしまいました。

最後、力尽きるその時、この方は何を考えたのだろうかと思います。

## Part Two

また先程の牧師先生の話に戻りますが、この先生は、今から10年程前に前立腺がん末期の宣告を受け、手術をお受けになりました。

手術を受けてから34回の放射線治療と2年間に渡るホルモン治療をお受けになりました。

その間、病院とは違う、とある療養施設にて生活をされたのですが、その施設には、入居者のための色々なプログラムがありました。

そのうちの一つ、「瞑想をする」というプログラムがあったのですが、「瞑想とはどういうことだろう？ 瞑想ってどんなことをするのだろうか？」と興味が湧き、そのプログラムに参加することにしました。

指定された部屋に行ってみますと、男性の青年、女性の青年、中年のご婦人と、ご自身を含めて4名の参加者がいたそうです。

すると女性の講師が、始めにこんな質問をしました。

「いつ、どんな時、皆さんは幸せですか？」

唐突な質問なので、誰も直ぐには答えられなかったのですが、この女性講師が、少し気弱そうに見えたのか、目の前にいる青年男子に、「あなた、答えなくちゃ駄目よ！」というようなプレッシャーを感じるさせるような視線で、「答えてみて下さい」と投げかけました。

その青年はしばらく考えてから、「一度も考えたことがないので、分かりません」と答えました。

そしたら、この女性講師が、「待ちますから、考えてみて下さい」と返します。

結構な沈黙が続き、この青年男性が、「事が上手く運んだ時、幸せです」と答えました。

次は、その隣の女性の青年に聞きました。

男性が時間を取って考えている間答えを考えていましたので、この女性は直ぐに答えることが出来ました。

「美味しいものを食べている時が、幸せです。」

そしてその次は、その後ろに座っておられたご婦人に聞きました。

すると、「空気の綺麗なところをトレッキングしている時が、幸せです」と答えました。

最後に、この牧師先生に同じ質問が投げかけられました。

そして、こう答えました。

「私の人生に絶対的な意味を見出せた時、私は幸せです。」

### Part Three

今日に生きる現代人の生き方は、昔の生き方とは全く違うように思えます。

昔は一日歩いても辿り着かなかった距離を、今は毎日朝晩と、電車や車を使って出退勤し、登下校しています。

IT機器の発達によって、数十年前には何十人もの人が行っていた作業を一人で行うようになりました。

それによって仕事が減ると思ったら、むしろ仕事が増えて、大変さは倍増しているのかもしれない。

小さな子供たちから大人に至るまで、無限ループにも思えるような競争社会を生き残るために朝から晩まで息つく間もなく動き回っている暮らしの慌ただしさと、私の幸せ・幸福と何の関係があるのか、幸せとは一体全体何なのか、誰も考えずに、誰も考えることもなく生きているようにも見えてしまう程です。

だから、「あなたにとって、幸せとは何ですか？」と問われた時、全然答えられないか、幸せではないものを幸せだと答えてしまいます。

先程の若い青年男子は、「物事が上手く行った時、幸せです」と、長い沈黙の後、絞り出すかのように答えました。

でも皆さん、人生を生きてみますとどうですか？

物事が上手くいくことの方が多いですか、それとも、上手くいかない時の方が多いですか？

例えば、人生を一言で言い表すならば、「人生とは、物事中々上手く行かないことの終わりなき旅程です」と、言うことが出来るのではないのでしょうか。

この青年が、「事が上手く運ぶことが幸せだ」と考える限り、この青年は、人生を不幸の中生きることになるでしょう。

女性の青年は、「美味しいものを食べると、幸せです」と答えました。

では、美味しいものを食べる経済的な余力がなくなってしまうらどうでしょうか？

または、お金は十分にあるのに、美味しいものがすぐ目の前にあるのに、食べることの出来ない人が沢山います。

私の父もそうでしたが、長いこと入院していて、最後召される前には、大好きなうな重をお見舞いの時買って行っても、スプーン一杯分を食べるだけでも苦しくて、笑いたくても顔がしかめっ面になってしまいました。

病院にお見舞いに行った人は美味しいものが食べられるのに、スプーン一杯、ほんの一口の美味しいものを食べることの出来ない方々が、病院には少なくない数おられます。

もし、この青年女子がそういう状況に陥ったならば、この女性は不幸の中生きることになるでしょう。

中年のご婦人は、「空気の綺麗な所でトレッキングをすることが幸せです」と答えましたが、例えば、光化学スモッグ等が発生して外に出ることも出来ず、家の窓を何日も締めっぱなしにした状態になったとしたら、実際、2011年の東日本大震災の時には放射能が云々と言われながら、それに近いような状態が起りましたが、空気が綺麗な森の中、林の中をトレッキングをする時が幸せと言うこの女性は、とても憂鬱な日々を過ごさなくてはならなくなってしまいます。

はたまた、ケガをしたり病気になったりしたらどうでしょうか。

いや、病気にならなかつたとしても、年を重ねれば体は衰退し、いつの日かトレッキングの出来ない日がやって来ます。

せつかくの夕焼けのように美しいだろう人生の晩年を、トレッキングが出来ないという理由で、不幸を感じることになってしまいます。

本来、幸せ・幸福とは、今日明日、水の泡のように消えて無くなってしまふものではありません。

幸せは、物質的なものの中で生成されるものではありません。

幸せは、時間と空間に支配され左右されながら、時と場合によってその意味が違ってくる相対的な、比較が出来るようなものでもありません。

幸せは、人生の絶対的な意味の中で見出すものであります。

そして、人生の絶対的な意味は、神さまとの、主イエス・キリストとの真つすぐな関係の

中でのみ与えられるものです。

#### Part Four

冒頭に、使徒パウロが書いたピリピ書3章の言葉を読みましたが、使徒パウロという方は、かつて、自分の義に生きる者でありました。

自らが考える正義、その正義が本当に正義なのか正義ではないのかは別にして、「私が考える正義なのだから正義なのだ」と生きていました。

限りあるこの小さな脳で、頭で考え、幼い頃から人の教える色んなものに影響を受け、学習し、染まり、それなりの倫理道徳観、死生観、人生観、価値観、宗教観に立って、または捉われて、自らの内に出来上がったものさしによって生きる者でした。

所謂、世の言う教育水準においてはエリートであり、社会的にもそれなりの地位のような名誉のようなものもありました。

そして、自分の義、それまで培ってきた自分の考える信念のようなものに則って、イエス・キリストを信じるクリスチャンたちは危険分子だと確信し、片っ端から取っ捕まえることの出来る公的権利まで手にし、その権利を喜んで行使していました。

ところが、その権利を残酷にも行使していた最中、突然、天からの光が彼を取り囲み、「パウロ、パウロ、なぜわたしを迫害するのか」という主イエス・キリストの声を聞き、目が見えなくなってしまいました。

それまで、自分の義、自分の信念、自分の自信に溢れ、先頭に立って人々を扇動し、導き、正しいことをしていると自他共に認めるような人だったのが、突如として、目が見えなくなり、誰かの手を借りなければ歩くことも出来ないような状態に陥ってしまいました。

あたかも、それまでの彼の生き方だったり、知っていたことだったり、身に付けたことだったりするものすべてが、真理を、道を、いのちを、幸いを見出す上で何の役にも立たないことであったことを示唆しているかのようでした。

そうしてパウロが悟らされたことが、先ほど読みましたピリピ3章の言葉です。

#### **ピリピ人への手紙3：7－14（パウロ）**

それまでの人生で培ってきたものは、何の役にも立たないどころか、むしろ、何が本当で何が嘘なのか、何が真理で何が真理でないのか、何が道で何が道でないのか、何が実りで何が実り出ないのか、何が幸いで何が幸いでないのか、どなたか神で何者が神でないのかを見極める上で、損であったと言います。

「まことの神を知らずして、私たち人間には、益になるものなんか無いんだ」ということをパウロは知りました。

まことの神を知る、救い主イエス・キリストを知るとは、この肉体と同じように弱り、衰退し、やがて滅び、消えて無くなるこの限りある世界から救い出されることであり、キリストの十字架の苦難が私自身のためであるということを知るとともに、その悟りゆえの苦難

をも、キリストが復活されたように死んでも生きるいのち、永遠のいのち、復活に与るために与えられている恵みだと、使徒パウロは涙ながらに語ります。

そして、そんな真理に生きる者とされた自分と同じ幸いな人であって欲しいと、「私に倣う者となって下さい」と、涙ながらに懇願します。

### ピリピ人への手紙 3 : 17 - 21 (パウロ)

今日は昇天者記念礼拝です。

先程、召天者追想の時を持ちましたが、召天者追想よりも大事なことを使徒パウロは今、私たちに涙ながらに語って下さっています。

即ち、「国籍が天にある幸せを、あなたは真に享受していますか？」と問うてきます。

多くの人がキリストの十字架の敵として歩んでおり、欲望を神とし、恥ずべきものを栄光とし、地上のことだけを考え、金や銀のような朽ちるものに心捕らわれ、左右され、本当に見なくちゃ見据えなくちゃいけないものを見ていないかもしれないと、涙ながらに訴えてきます。

### Conclusion

私たちの人生は、私たちのこの卑しい体をもって終わってしまう滅びに至る道だけではありません。

主イエス・キリストを知り信じ、主イエス様を知り信じる素晴らしさのゆえに、それ以外のすべてのことが損と思えるほどの幸いな道があります。

それが、死んでも生きる、キリストが私の罪のために十字架に架かられ復活して下さったように、罪ゆえに一度は死ぬことが定まってはいても、第二の死に至ることのない復活がキリストにあって成し遂げられること。

即ち、天の御国にて神とともに永遠に住まう目標を目指し走って行くということです。

損なものに、まことの神イエス・キリストを知る前のうしろのものに縛られる人生ではなく、イエス・キリストにあって神が上に召して下さるという前のもに向かって身を伸ばす幸いな人生があるのです。

それこそ、私たち人間に許された、唯一の究極の幸いです。

今日追想しました先に召された方とともに、ここにいる私たちも一人残らず、神が、主イエス・キリストがご用意下さった上に召して下さるという賞を頂く者でありたいと願います。

そしてそのために、何とかして死者の中からの復活に達しようと、国籍が天にある幸せを噛みしめながら生き抜こうではありませんか！

お祈りいたします。

祝祷：ピリピ 3 : 11